

仙人通信 191 思親山(1031m)

思親山(ししんざん)は、富士川沿いの南部町と支流の佐野川にある天子湖に挟まれた毛無山から続く尾根上にあり、山梨 100 名山 71 番目の山で 2 等三角点の山でもある。

身延線の内船駅→内船寺を経て、杉林の中の幅 2m 程の林道を進み、上佐野と内船地区を結ぶ佐野峠の駐車場に車を置き、東海自然歩道を山頂までピストンする事とした。

登って来た林道の左側にある階段からのスタートである。落葉樹に芽吹きが始まり、足元ではスマレが咲き、山肌ではエンレイソウやコバイケイソウの新芽が春を迎え元気である。

このコースは、長者ヶ岳や対岸の青笹山へと繋がる東海自然歩道であり丸太の階段等で整備されている。足元では、ピンクのカタクリの花や黄色いきじむシロも咲き、元気をくれる。

スタートから 20 分程で最初のピークとなり、シデ・ブナ等の落葉樹林から左側が杉林となり、階段が続く。5 分程で今度は杉と檜の林となる。更に 10 分程進むと南面が切り開かれた所となり、真下に天子湖がその上には天子ヶ岳が、更に上に白く化粧した富士山である。

再度杉林の中を 10 分程で思親山山頂(駐車場から 45 分)である。山頂部は草原状で周囲にはマメザクラが元気に咲き誇っていてくれた。思親山の名の起こりは、身延山で修業をされた日蓮上人が、この峯越しに故郷である房州の父母を偲んだとの伝説に由来するとの事だ。

山頂のベンチに地図とコンパスを据えて山の確認である。北岳は望めないも、白く化粧した塩見岳・策ヶ岳そして手前に七面山・身延山である。西側には仙人通信でもご紹介した八紘嶺・十枚山・篠井山・青笹山・高ドッキョウ・貫ヶ岳が、更に南には真富士や浜石岳だ。

駿河湾・愛鷹山そして富士山である。しばし休憩後、前述の天子湖や富士山の眺望が利いた先にある道標『林道終点』に従い、下山する事にした。若木を鹿等から守る為に張られた青い網に沿って下降を始めるも倒木が多く足跡も消え、ピンクのテープも無いコースである。

足元に咲くエイザンスミレに元気を貰い、引き返す事を覚悟で 25 分程下降したら、網が張られた林道終点地に辿りつけた。ここから駐車場までは、綺麗な富士山を眺めようと思っていたが、杉の植林帯であった(ガックリ…)。されども崖には、スマレ・イワボタンやキブシの花が咲き元気をくれた。一方、沢の場所では天子ヶ岳の上に白い富士山が望めた(ホ！)。

20 分程で大きなゲートのある佐野峠に到着だ。白いイチリンソウが帰りを迎えてくれた。佐野峠から上佐野方面と三石山方面に向かう林道はどちらも車両通行止であり、毛無山から天子ヶ岳その上に富士山が望める三石山方面を約 30 分散策した。

『風になびく富士の煙の 空に消えて 行方も知らぬわが思いかな』で有名な西行法師に纏わる西行峠・公園に立ち寄るとそれまで有った雲が飛び、富士見三景の『盆中の富士』が顔を出してくれ、心 and 3 時間強(11000 歩)の山旅となりました。

(h31.4. 18)

山頂から竜爪山隼 マメザクラと富士 西行公園の歌碑 盆中の富士

